

第39回 箱根旧街道を歩く

第4支部 三共商事(株)

理事 小川秀一

平成20年11月9日 くもり

胴に巻きついたメジャーは86.5cmを示していた。「ちょっと、サービスしましょう」、キュッとメジャーを絞り込み85cmにしてくれた。先月行った人間ドックなのだが、親切な病院である。その後、血圧測定、視力検査、聴力検査、肺活量測定と進み内科の医師との問診となった。受診カルテを見ながら、「血圧がちょっと高いですね。それに、メタボですかあ」。さっきのウエスト測定だ。うう～ん、何がサービスだ。85cm以上がメタボリック症候群！！そんなことは分かっている。どうも変だと思ったんだ。サービスなら84cmにすべきなんだよ。メタボという言葉に軽い衝撃を受け、その医師から何か運動はやっていますか？」の質問に一瞬戸惑い間があいた。「ちょっと通勤で歩く程度で」「定期的な運動は？」「あ～、最近ちょっとゴルフはやってますが」「うう～ん、ゴルフはねえ」「駄目ですかあ」「寝不足で朝早くやったり、運動不足で急に始めたりと、あまりお勧めできませんよ。わたしはやってないんですが…。それより歩くことをお勧めします」。その医師が同年輩だった気安さとちょっとした好奇心から、「先生はどんな運動をなさってるんですか？」と質問してしまった。「まあ、休日は一人で近所を16km位は歩くことにしてるんです」。16kmとは中途半端な距離だが4里ということかなあ。先生の一人で歩く孤独な姿を想像しながら「ふう～ん、3～4時間は掛かるんじゃないですか。ただ歩くだけじゃ、つまらないでしょ」「自然と触れて歩くって、結構楽しいですよ」…。先生が休日に家にいられない理由など個人的な話を25分間くらい承り、長い問診は終わった。

前振りが長かったが、という訳で、久しぶりのハイキング同好会に参加し、メタボ解消、運動不足解消に意欲を燃やすこととなった。

9時10分箱根湯本駅に集合。決して早いとは言えないこの時間帯に箱根湯本駅の改札口が工事中ということも重なり、列車が到着するたびに思い思いの服装で集まるハイカーたちの人波が駅の通路に溢れる。集合時間に遅れると「置いて行きますよ」と言っていた乾さんの顔が浮かび1時間も早く着いてしまった。苦勞して時間を潰し集合場所に戻ると、そこには磯部さんご夫婦が一番乗りをしていた。続いて原さんご夫婦。両ご夫婦とも手慣れた装備でキッチリとした出で立ちである。人垣の中から大根田さんと若林さんを見付け、秦さんもそこに加わ

る。このお馴染みメンバーに今回 組合事務局の山本さんが初参加である。そして、肝心の乾さんは悠然と時間ギリギリの到着である。そうだ、彼は彼自身に置いて行かれる事は無いのだった。そんな訳で、全員駆け足でバスに飛び乗った。

天下の険と言われる箱根山は、鳥になって空から眺望すれば、長径15km、短径10 kmの南北に長い円形に並んだ外輪山が確認できることだろう。箱根の地形は大規模に陥没してできたカルデラ式火山が作り出している。3000年ほど前、カルデラの中心部分に位置する箱根の主峰神山の北側付近で水蒸気爆発が起き、山体が大きく吹き飛ばされ大湧谷が生まれた。そのとき大規模な土砂崩れが起こって早川を堰き止めた。こうして、カルデラ南西部に芦ノ湖がつけられると共に、その頃のカルデラ北部に在った仙石原湖が大量の土砂で埋め立てられ湿原になって今の仙石原が生まれたという。

飛び乗ったバスは元箱根へと向う。元箱根は終点の一つ手前なのだが、そこまでつづら折りの上り坂を揺られて行く。今日のハイキングはこの道路と何度か交差しながら隣接する箱根旧街道を湯元へ引返してくるコースである。バスは急坂をひたすら登って行く。出発してからの乗車時間が長いことに気付き、行程3時間で戻れるのかと参加者の表情には不安が走る。若林さんなどは途中の甘酒茶屋のバス停で「ここで待っていますから」と脱走を試みたが皆さんの厳しい視線に合い失敗に終わった。甘酒で酔えるかは別にして、気持は分かる。全員、参加した動機の半分はハイキングを終えた後の飲み会にあるのだ。ただ、考えてみると行きは登りばかりということは、帰りは下りばかりという事だ。車窓から周囲の山に目を遣る。紅葉満喫の旧街道ウォーキングと思ったが、まだ早いようだ。12月の忘年ハイキングの前哨戦といった所だ。そうこうしている内に40分掛かって目的地の元箱根に着いた。

今回歩く箱根旧街道は小田原から三島に向う東海道の一部を成し、参勤交代の大名行列も弥次さん喜多さんも通った街道である。箱根八里とはこの小田原から芦ノ湖畔の箱根宿までの上り四里と、箱根宿から三島宿までの下り四里をいう。平安時代には、いまの東名高速が通る大井松田から足柄、御殿場を経由して三島へのルートが使われていたが、大回りのためすたれ、小田原から三島へ最短の箱根八里が使われたという訳だ。また、そもそも1601年に徳川幕府が東海道に宿場制を定めたときには箱根宿は無く、箱根は東海道最大の難所であった。それで西国の大名から「箱根山中に宿場がなくては、参勤に難儀する」との訴えがありこの箱根宿が作られたそう。今回のコースは箱根宿から小田原宿への下り四里の中程にある湯本までの2里である。

さあ、ここからが本当の出発だ。元箱根にある稲荷神社に安全を祈願。磯部さ

んと乾さんは写真撮影に余念がない。磯部さんの奥様からは「主人は重たいものをみんな私のリュックに仕舞っちゃったんですよ」「だって、俺のより余裕があったから」夫婦愛が感じられる会話である(ここの部分は理事長権限でカットされるかも知れません)。ここから石畳の箱根旧街道である。楽だと思った石畳の道はダチョウの卵大の丸い石が敷き詰められ、歩きにくいこと夥しい。石に角が無いので取っ掛かりがなく、さらにその表面には苔が生えていてツルツルするのだ。原さんのご主人が先頭を切る、なぜか快調だ。「主人、下りは得意なんです」奥様からのお言葉が飛ぶ。ずっと下り坂で滑りそうな道が続く。ふくらはぎのアキレス腱側付近に妙な力が入り、暫くすると足がツリそうになってきた。日本人は几帳面というが、この石の選定や置き方からして手抜き品の粗悪品だ。ローマ時代に作られたイタリアのアップピア街道はもつと几帳面で精巧に作られているなどと思いながら旧街道を下って行った。転ばないように下ばかり見ていて、周囲の景色を堪能するなどとんでもない。30分もしない内に肩は凝るし、足はツリそうだと大変なことになった。

途中、畑宿(はたじゅく)にある一里塚でちょっと早めの昼食となった。直前に不参加となった内田さんからスコッチを2本差し入れていただいた。ボウモウ12年物とグレンフィデックの12年物だ。さすがグルメは差し入れるものが違う。これに恒例の大根田さんのスモークチーズと磯部さんの紅茶をいただき、最高だ！！

皆さん、有難うございました。最高に美味しゅうございました。

昼食の後、寄木会館や北条氏ゆかりのお寺などを見学したが、なんと言っても帰りの電車の中での大宴会が楽しみだ。今回、ひたすら黙々と歩いた記憶が強いが、やはり、ちょっと得した気になるのが「帰りの大宴会」。これがないと半分ですよ。

今回は湯本で買ったツマミと磯部さんの奥様に大事にお持ちいただいたスコッチ(内田さん、有難うございました)でロマンスカーの大宴会は楽しかったですよ。

ところで、最初にお話しした人間ドックの間診の先生は休日に4里をお歩きでしたが、箱根から小田原までの距離なんですよ。今回は2里。それでもフウフウなんですよ。あの先生は健脚だったんですね。という事で医師もお勧めのハイキング、メタボ解消、運動不足解消のため、たくさんの方々のご参加お待ちしております。

では皆さん、次回は12月23日天皇誕生日の忘年ハイキングです。お待ちしております。いや違った、俺は野暮用で欠席だった。では…。